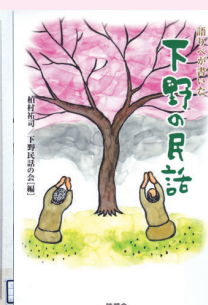


ぞく とちしよるいじゅう 続 栃書類従

県民がよく使う 栃木県の地域資料 リスト

栃木県立図書館 平成28年12月



【『栃書類従』について】

「類従・類聚」とは“種類ごとに集めること。また、集めたもの。”という意味で、古くは平安時代に書かれた法令集『類聚三代格』から、近年の『近世文学資料類従』や『古典資料類従』まで、様々な叢書が刊行されています。

その中で特に有名な『群書類従』は、古代から近世までの間に国内で著作・編集された書物（＝「国書」）を網羅的に収集・編さんしたもので、江戸時代の国文学者・塙保己一（はなわ・ほきいち）によって刊行されました。氏の生涯をかけた一大事業によって国書の散逸が防がれた結果、現代に至るまで国文学・歴史学等の研究で重宝されることとなり、当館でも大いに活用されています。

このような先人の偉大な功績にならい、これまでに出版されてきた栃木県に関する書物（＝「栃書」）がこれからも活用されること、そして本県の魅力がその活用を通して伝わることを願い、「栃書」を当館の分類ごとに集め、紹介した本資料を『栃書類従』と命名しました。